

第47号 松前屋通信



H24年7月5日 発行

発行人・編集人：MDM チーム

発行：株式会社 松前屋

大阪市中央区心斎橋筋 2-8-1

TEL(06)6213-0084 FAX(06)6213-5172



一層パワーアップ?!心斎橋チャイナタウン化

今年に入って中国系観光客で賑わう心斎橋筋商店街が復活! 昨年の震災後は減少したものの、やっとここにきて旅行者が増えてきたような気配です。ところが、なんだか一年前とチョッと様子が違ってきているなあ…という感じがいなめません。

どうしたことか一考してみると、①デカイ声で叫びまくっている中国人が減った(個人旅行がふえたのか?)、②香港・台湾の旅行者が増えている(彼らは自分たちを中国人と呼ぶかと主張する、了解!)、③ハデな高級品の買い漁りが減った(家電の持ち歩き、特にお釜の持ち歩き個数が減った!)、④コクミン薬局やマツキヨでの買い物がメチャ混みにならない(助かります!)、⑤明らかに若い女子が素敵になって日本人女子と区別がつかない(でも、オジサン達は相も変わらずそれと分かる)、っと個人観光ビザの緩和・中間層の増加、税関が厳しくなったことなどお国の方針が変わったことによる影響が見られる様です。

しかし、実はもっと変わったのは観光客を迎え入れるお店の側なのではないでしょうか。日本人も負けてはいません。まず、①中国語POPは当たり前! ②銀聯カード取り扱店が増えています(松前屋は未だ対応不足です、すみません。) ③中国語の話せる店員による呼び込みが飛び交う! ④免税店の表記が何だか目立つ…。



銀聯カード取扱案内を前面にアピール!のkokuminさん

一方、松前屋本店も他人事ではなく、必死の応戦を試みております。

①中国語POPを店内に設置 ②言葉はわからなくても落ち着いて身振り手振りで説明(断固、日本語で押し通す!) ③身振りで試食を勧めて ④ご購入! っと、29歳をはじめ74歳の最古参店員に至るまで手なれた様子で接客しています。うーん、商人の慣れってスゴイ…。気づけば売上の占める割合も大きくなってきています。



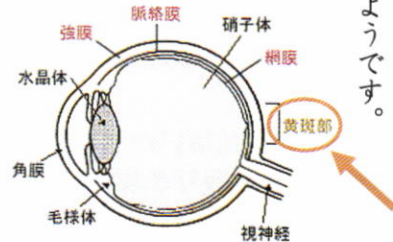
梅短冊昆布も中国語で説明とお粥の写真を置いてわかりやすく!

なお、企画室には中国語を話せる豊田君が、日々本店の指導に当たっておることも併記しておきます。『昆布』はワカメで、『海帯』が昆布ナリ!!!

健康法師の独り言 パート

黄色には黄色を

目の調子が悪いという人はドンドンと増えているようです。学生の時から勉強やゲームからくる近視に始まり、社会人になってからはPCと一日中ならめっこのという具合だから、情報化社会はすなわち、目を傷める世界ともいえるようです。事実、人間が得る情報の80%は視神経を通して得られ処理していると言われ、耳や鼻からの比ではありません。こうして若いうちからでも目を傷める現代社会ですが、さらに老化という誰もが悩むファクターが追い打ちをかけます。老眼に始まり、飛蚊症、白内障や緑内障など長年の酷使と関係する目の症状は様々です。視野が失われたり、モノが歪んで見えるという経験は実にショッキングな出来事ですね。



最近問題になっているのは、黄斑変性症という病気。網膜内の『黄斑』という場所で人間は1・5の視力を観るわけで、最もピントの合わせどころという重要な部分です。何か一点を集中してみる場合、それでもぼやあくつとまわりの様子は視野に入っていますね。これがその他の網膜に映っている知覚の仕方です。焦点の合っている部分を映しているのがこの黄斑というわけです。この黄斑に老化が原因で異常をきたし、モノが歪んで見えたり視野に欠損を生じたりします。これは実際にショックです! 見にくい、見えないというのは生活上でも実に不愉快でもあり、不安でもあり…。

特に紫外線の強さは昔とは違っています。目の老化を早めないためには、日ごろからサングラスを多用するのが予防法のように、特にブルーの光線をカットする黄色のレンズが有効という事です。黄色レンズのメガネでは『サイケなオヤジ!』なんて言われそうですが、ここは一番、マッキキキだけは避けながら薄っすら黄色で行きましょう。これなら夜の運転時でも全く問題が無く、便利なモノでもありませんよ!



→ 黄斑変性症の見える方